

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670800770
法人名	医療法人社団 さつき会
事業所名	グループホーム 明日葉
訪問調査日	平成 20 年 2 月 5 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 1 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月26日

【評価実施概要】

事業所番号	670800770		
法人名	医療法人社団 さつき会		
事業所名	グループホーム 明日葉		
所在地 (電話番号)	山形県酒田市曙町2丁目24番地2号 (電話) 0234-26-7173		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成20年2月5日	評価確定日	平成20年4月1日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月22日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15 名、非常勤 名、常勤換算 14.3 名

(2) 建物概要

建物形態	併設／○単独	新築／改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての 階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000円「水道光熱費含む」	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 1,150 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あしたばクリニック、日本海病院、市立酒田病院、本間病院、石川歯科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郊外の福祉施設エリア内に立地しており、近隣住民や周辺地域で働く人々の姿を間近で感じることができ、「地域社会との一体感」を感じながら暮らすことができています。
「笑顔、挨拶、声掛け」を目標にした温かなケアが毎日提供されており、「人生の先輩」として利用者を職員が尊敬することはもちろんのこと、「家族の声」も大切にしていきたいという考えから「満足度調査」も毎年行われています。
併設のクリニックや老人保健施設との連携・協力にも支えられながら、災害発生時には高齢者等の地域住民をホームでも受け入れていこうと考えている「地域密着型」を目指すホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題はありません。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回は前回から変わった点や項目も多かったが、全職員と確認し合いながら自己評価を作成し、今後さらに取り組みを進めたい点についても検討することができた。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 平成18年6月から2ヶ月ごとに開催しており、最近では成年後見制度や悪徳商法から身を守る消費生活講座など、幅広く検討する場となっている。また、災害発生時には高齢者等の地域住民(5名程度)をホームでも受け入れる話が会議の中で出されている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱の設置や苦情窓口の説明はしているが反応が少ないため、毎年3月に満足度調査を行っている。「健康状態の悪化によりホームに居られなくなった時の不安」「節電に取り組んでいることから暗いという感想」も寄せられ、改善への取り組み材料としている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 酒田祭り、盆踊り、文化祭などには毎年参加し、自治会やホームの夏祭りで相互に交流している。また、畑で幼稚園児と芋掘りをしたり、子供会の神輿がホール内を回ったりと、楽しい付き合いが広まってきている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初から「地域とのふれあいを大切に」を理念に掲げ、自治会や幼稚園、小学生達との交流を深めている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、出勤時やケア会議などあらゆる場面で理念を確認しながら、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	酒田祭り、盆踊り、文化祭などには毎年参加し、自治会やホームの夏祭りで相互に交流している。また、畑で幼稚園児と芋掘りをしたり、子供会の神輿がホール内を回ったりと、楽しい付き合いが広まってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は前回から変わった点や項目も多かったが、全職員と確認し合いながら自己評価を作成し、今後さらに取り組みを進めたい点についても検討することができた。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年6月から2ヶ月ごとに開催しており、最近では成年後見制度や悪徳商法から身を守る消費生活講座など、幅広く検討する場となっている。また、災害発生時には高齢者等の地域住民(5名程度)をホームでも受け入れる話が会議の中で出されている。		

山形県 グループホーム明日葉

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の連絡協議会の入所部会や市の介護保険実態調査などで、親しく連絡や助言を受けることがあり、共にサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員の異動や利用者の健康状態・暮らしぶりは、面会時や電話で詳しく報告している。受診の際の家族訪問も多いため、金銭管理を家族がしている方、また、利用者自身が自己管理をしている方がいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情窓口の説明はしているが反応が少ないため、毎年3月に満足度調査を行っている。「健康状態の悪化によりホームに居られなくなった時の不安」「節電に取り組んでいることから暗いという感想」も寄せられ、改善への取り組み材料としている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来大きな異動はないが、異動があっても利用者や家族とコミュニケーションを十分にとりながら、ダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県内外の研修には積極的に参加し、法人内では月2回勉強会を開催し、職員の質の向上に努めている。また、資格取得のための集中研修もあり、学習しやすい環境ができています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入っており、県内、市内の事業者との課題分析方法の勉強、活動発表、交換実習など活発な交流が行われており、質の向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴などをよく把握し、一人ひとりの得意分野を發揮できる場面を作り、教えてもらったり一緒に過ごしながら支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症高齢者の支援に配慮した課題分析方式を用いており、それぞれの希望や意向の把握に努めている。また、意思表示が難しい場合には、あらゆる点から検討し本人本位にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族、関係者などチームで話し合った、利用者本位の介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを行い、それ以前に変化が生じた時は、直ちに新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	家族による通院介助を勧めており、かかりつけ医や家 族との関係を築きながら、利用者が適切な医療を受け られるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	定期的な介護計画の見直しの際や重症化した場合 に、その都度方針の検討をしておき、全員で方針の共 有をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	利用者の誇りや尊厳を守り、優しくわかりやすい声かけ をしている。また、個人情報の取り扱いは厳重にし、守 秘義務の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の当日のペースに添い、希望を聞きながら一日 を過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑から収穫した食材の下準備など、できることは手分けして行うようにしており、食器拭きや片付けなど職員と一緒に楽しみながら行っている。また、嚥下能力に応じて「きざみ食」「とろみ食」など、きめ細かな支援がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制をとっている。拒否のある方にはタイミングを図りながら入浴の支援がされており、楽しんでもらうように毎日工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今やりたいことを把握し、民謡や刺し子、ぬり絵、食事の準備、掃除など幅広く支援している。また、一年間の天候や食事メニューを記載するなどの自発的な楽しみや毎月の誕生会、ボランティアとの交流も楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年々利用者の機能低下がみられ、外出が困難になってきているが、穏やかな天候の日は、車椅子やバスで散歩やドライブに出かけるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	全職員が鍵をかける弊害を理解し、日中は鍵をかけずに利用者の観察を十分に行い、安心して安全なケアを心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成し、夜間を想定した避難訓練を年に2回実施しているが、自治会など地域住民の協力や連携方法などの話し合いはまだできていない。	○	災害時には地域住民や近接の会社で働く人々の協力も大きな力となるため、自治会や地域住民、行政や消防などからの連携や協力が、より具体的に得られるようにしておくための話し合いや取り組みも期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事や水分の摂取量は個別に記録しており、状態に応じて一部介助による摂取の支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたホールには、絵画や季節の貼り絵、書初めが貼られ、行事の写真もあり日々の活動を伝えている。また、共用空間には手すりが付けられ、安全に配慮された居心地よい環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッド、チェスト(整理タンス)、洗面所が用意されており、好みの使い慣れた品を持ち込む等個別の工夫がなされている。		